

九州半導体人材育成等コンソーシアム 2025年度 人材育成WG活動 報告

2026年3月19日（木）
九州半導体人材育成等コンソーシアム
人材育成ワーキンググループ事務局

人材育成WG活動

全体進捗報告

人材育成WG 2025年度活動概要

1. 実態把握・情報収集調査

- ① 「人材需給ギャップ フォローアップ調査」による最新の半導体人材の不足・採用状況等の把握
- ② 「構成機関における取り組み状況調査」による人材育成・確保の取組状況の把握及び対外発信

2. 半導体産業の魅力発信

- ① 「教員向け研修会」の実施による教員の半導体産業に対する理解度・関心度向上の促進
- ② 「産学ミートアップ事業」の実施による学生の半導体産業に対する実感値を伴った理解の促進
- ③ 半導体産業魅力発信コンテンツのアップデート（冊子の発行は2026年度以降に実施予定）

3. 半導体人材育成・確保

- ① 「出前授業」（横断的教育カリキュラム）の実施による半導体産業を横断的に捉える人材の育成促進
- ② 産学連携による教育・研究環境の整備促進（装置類寄付・講義開放）

4. 横断的・ダイバーシティ推進

- ① 「海外人材サブWG」の設置による九州半導体産業における海外人材活用に向けた課題感等の把握
- ② 「自治体サブWG」の設置による自治体間の情報共有及び連携促進、人材育成WGとの連携検討

2025年度 コンソーシアム 人材育成WG構成機関

人材育成WG：座長 安浦 寛人 （人材WG構成メンバー／産学官124機関）

（2026年3月4日時点）

属性	団体名
1	株式会社BREXA Next
2	旭化成エレクトロニクス株式会社
3	旭化成マイクロテクノロジー株式会社
4	株式会社アスカインデックス
5	アドバンスソフト株式会社
6	株式会社アムコー・テクノロジー・ジャパン
7	株式会社アルプス物流
8	株式会社ウイルテック
9	エア・ウォーター株式会社
10	株式会社エイジェック
11	SMC株式会社
12	エスアイユー株式会社
13	九州電子株式会社
14	計測エンジニアリングシステム株式会社
15	興研株式会社
16	サクセスインターナショナル株式会社
17	株式会社SUMCO
18	櫻井精技株式会社
19	株式会社三松
20	株式会社ジーダット
21	JSR株式会社
22	Japan Advanced Semiconductor Manufacturing株式会社
23	株式会社ジャパンセミコンダクター
24	株式会社スタッフサービス
25	ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社
26	株式会社タケシタ
27	田中電子工業株式会社
28	株式会社テラプローブ
29	株式会社デンソー
30	東京エレクトロン九州株式会社
31	東芝情報システム株式会社
32	東洋ワーク株式会社
33	株式会社西村ケミテック
34	日研トータルソーシング株式会社
35	日総工産株式会社
36	日本アイ・ビー・エム株式会社
37	日本シノプシス合同会社
38	株式会社日出ハイテック
39	平井精密工業株式会社
40	株式会社平山GL
41	フェニテックセミコンダクター株式会社
42	フジアルテ株式会社
43	マイクロカット株式会社
44	株式会社マイスティア
45	株式会社マイナビ
46	株式会社安川電機
47	UTエイム株式会社
48	横河ソリューションサービス株式会社
49	吉川工業株式会社
50	吉川工業アールエフセミコン株式会社
51	ラムリサーチ合同会社
52	リクルーティング・パートナーズ株式会社
53	株式会社ワールドインテック

54	岩崎学園
55	大分工業高等専門学校
56	大分大学
57	開新高等学校
58	鹿児島大学
59	北九州工業高等専門学校
60	九州工業大学
61	九州産業大学
62	九州職業能力開発大学校
63	九州大学
64	近畿大学
65	熊本県立技術短期大学校
66	水保高等学校
67	熊本工業高等学校
68	開新学園 熊本工業専門学校
69	熊本高等専門学校
70	熊本大学
71	久留米工業大学
72	国立高等専門学校機構
73	佐賀大学
74	佐世保工業高等専門学校
75	崇城大学
76	第一工科大学
77	東海大学
78	長崎工業高等学校
79	長崎大学
80	西日本工業大学
81	福岡工業大学
82	福岡大学
83	都城工業高等専門学校
84	宮崎大学
85	柳川高等学校
86	八女工業高等学校
87	立命館アジア太平洋大学
88	早稲田大学

89	福岡県
90	佐賀県
91	長崎県
92	熊本県
93	大分県
94	宮崎県
95	鹿児島県
96	福岡市
97	北九州市
98	熊本市
99	国土交通省九州地方整備局
100	文部科学省
101	株式会社熊本銀行
102	株式会社佐賀銀行
103	株式会社十八親和銀行
104	株式会社肥後銀行
105	株式会社三菱UFJ銀行
106	株式会社日本政策投資銀行
107	大分県LSIクラスター形成推進会議
108	かごしまモノづくり推進協議会
109	株式会社価値総合研究所
110	公益財団法人北九州産業学術推進機構（FAIS）
111	一般財団法人九州オープンイノベーションセンター
112	公益財団法人九州経済調査協会
113	一般社団法人九州経済連合会
114	公益財団法人九州先端科学技術研究所
115	公益財団法人佐賀県産業振興機構
116	国立研究開発法人産業技術総合研究所
117	SEMIジャパン
118	一般社団法人電子情報技術産業協会（JEITA）
119	独立行政法人日本貿易振興機構 福岡貿易情報センター
120	公益財団法人福岡県産業・科学技術振興財団（ふくおかIST）
121	東北経済産業局
122	関東経済産業局
123	中国経済産業局
124	内閣府沖縄総合事務局

人材育成WGについて

目的

- 半導体人材の育成・確保、多様な人材活躍に向けた環境整備、半導体産業の魅力発信等の産学官金による横断的な取組を推進し、九州における半導体人材の需給ギャップの縮減及び解消を通じた我が国の半導体産業の基盤強化

ゴール

- 産学官金による横断的な取組を推進する各ステークホルダーが内発的な動機付けにより人的資源や予算を含め主体性・能動性・潜在力を発揮し、九州における半導体人材の需給ギャップの縮減及び解消に取り組む普遍性・自走化を確立

活動方針

- 産学官金による横断的な取組を推進する各ステークホルダーとの対話と傾聴を通じて、九州における半導体人材を取り巻く環境・課題意識の本質的な課題への気づきを促すとともに、各種調査結果と周辺環境を基にPDCAを高速回転させ年度計画に柔軟に反映させる

海外人材サブWGについて

目的

- 海外との産業交流促進をはじめとするダイバーシティ推進に向けた環境整備を行い、九州半導体産業における海外人材の活用と育成を推進することで、九州における半導体人材の需給ギャップの縮減及び解消に寄与

ゴール

- 海外人材シーズと九州における半導体産業ニーズの良質なマッチングを形式知的に実現する面的展開可能な産業交流フレームワーク（アセスメントによる能力・知見・経験等の可視化／工程・職種・職域等のマインドセット、課題設定型伴走支援手法や優良支援事例）を確立

活動方針

- (九州地域との連携を期待する)諸外国間における人材シーズ・ニーズのマッチング要素・プロセスの差異を考察・可視化させる
- (九州地域との連携を期待する)諸外国関係機関への九州における半導体産業で活躍を期待する海外人材像の提言に繋げる
- 各種調査結果と周辺環境を基にPDCAを高速回転させ年度計画に柔軟に反映させる

自治体サブWG（人材育成領域）について

目的

- コンソーシアムに参画する自治体同士の情報共有を円滑に行い、九州における「半導体人材育成・確保」、「海外との交流促進」の取組の更なる進展・拡大に寄与

ゴール

- 自治体連携を起因とする内発的な動機付けにより人的資源や予算を含め主体性・能動性・潜在力を発揮し「半導体人材育成・確保」、「海外との交流促進」を通じた九州における半導体人材の需給ギャップの縮減及び解消に取り組む普遍性・自走化を確立

活動方針

- 行政区域に囚われずに生活圏をベースとした地域づくりや人の往来を更に加速させる「ONE KYUSHU」コンセプトの下、「生産」、「プロジェクト」、「サプライチェーン」、「販売」、「戦略」、「問題解決」等の全体最適のマネジメント力を醸成する
- 各自治体が抱える「半導体人材育成・確保の課題感」や「解決策」、「自治体横断的に取り組める事業」をテーマに対話と傾聴を通じて、九州における半導体人材を取り巻く環境・課題意識の本質的な課題への気づきを促すとともに、各種調査結果と周辺環境を基にPDCAを高速回転させ年度計画に柔軟に反映させる

2025年度 事業スケジュール

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
全体会合								10/17 第7回 会合					3/19 第8回 会合
人材育成WG					7/23 第1回 WG		9/19 第2回 WG				次年度 方針検討		3/4 第3回 WG
実態把握 情報収集 調査	半導体人材需給ギャップ（フォローアップ）調査 サプライチェーンマップ更新		アンケート票作成			アンケート票作成	アンケート票発送・回収		集計・分析		結果まとめ		●公表
	構成機関における人材育成・確保の取組状況調査		アンケート票作成		アンケート票 発送・回収	集計・分析 結果まとめ		●公表					
半導体産業 の魅力発信	教員向け研修会				●7/25 三菱電機	●8/28 日清紡マイクロデ イスAT					●1/15 ルビセミコンダクタ ●1/21 フェニテックセミコンダクター		
	産学ミートアップ		参加者募集			●8/4 SUMCO	●8/21 大分開催		参加者募集			●2/18 長崎開催	
半導体人材の 育成・確保	出前授業・横断的教育	出前授業（大学・高専・高校）											
	産学連携による教育・研究環境の整備 （装置類寄付構築・講義開放）*ナレッジシェア*		仕様検討					アンケート票発送・回収		集計			限定公表●
ダイバーシティ推進	【海外人材サブWG】 海外人材活用に向けた検討		組成準備 方針検討			9/2 第1回 サブWG			第2回 サブWG		議論結果 まとめ		第3回 サブWG
横断的な取組	【自治体サブWG（人材育成領域）】 自治体連携に向けた検討		5/21 第1回 サブWG		連携取組 の検討		9/3 第2回 サブWG					2/3 第3回 サブWG	

人材育成WG活動

個別報告

1.-①実態把握・情報収集調査【半導体人材需給ギャップフォローアップ調査】

調査の背景と目的

※本調査結果の詳細は別途、九経調様から報告いただきます

- 近年、九州地域では半導体製造拠点の集積や関連投資の進展が見られる中で、製造、設計、半導体製造装置、評価・分析、物流等を含む幅広い分野において、半導体関連人材の不足や、将来的な人材確保に対する懸念が顕在化している。
- また、本コンソーシアム活動開始（2022年3月）以降、AIや自動運転技術の進展、脱炭素社会の実現に向けた動きなどを背景として、半導体産業を取り巻く環境はさらに大きく変化している。
- このような状況を踏まえ、本コンソーシアム設立直後の2022年度に実施した「半導体人材育成需給ギャップ調査」からの変化を把握するとともに、現在の半導体関連人材の不足状況や過不足感、今後の人材需給の見通し、採用活動や人材育成に係る課題等について改めて整理することを目的として、2回目となる同調査を実施した。

アンケートの実施内容

- 調査期間：2025年8月7日～2026年2月27日
- アンケート発送数：917
- 有効回答数：182
- 有効回答率：19.8%
(SIIQ事務局が委託し、九州経済調査協会様で調査実施)

調査対象

- ①九州管内に所在する半導体デバイス(設計・製造)及びその製造装置等に関連する企業
- ②九州管内に所在する半導体インフラ(材料、部資材、装置製造サポート、物流や人材派遣等のサポーターティングカンパニー)に関連する企業

調査結果

(前回：2022年度調査における2024年度の推計値)

【九州における半導体人材需給ギャップ（2024年度）】

- ☆採用計画：3,650人/年 (前回比：+250人/年)
- ☆採用実績：3,100人/年 (前回比：+800人/年)
- ★過不足感：550人/年 **不足** (前回：1,100人/年 不足)

【人材育成WG事務局の考察】

- 大企業を中心に設備投資分の稼働に伴い、採用規模も拡大
- ただし、採用実績は計画に届かず、年間550名の不足
- 一方で企業の採用努力に加え、業界全体や産学連携による人材確保の取組等により、前回調査時から不足数は改善傾向が見られる

1.-①実態把握・情報収集調査 【サプライチェーンマップ更新】

目的

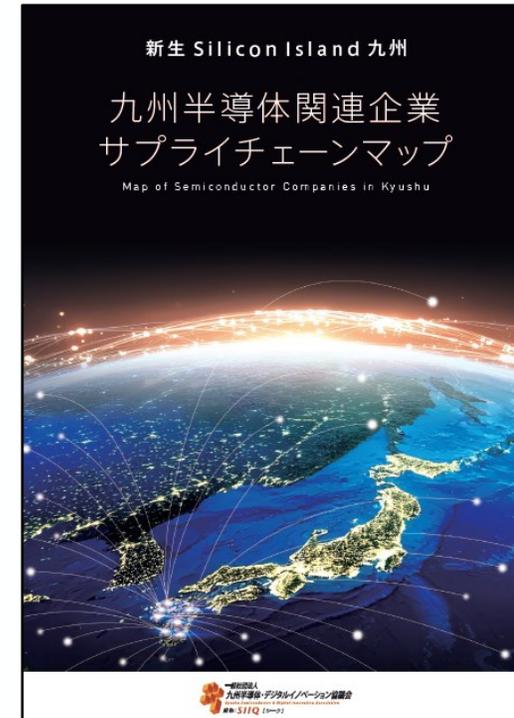
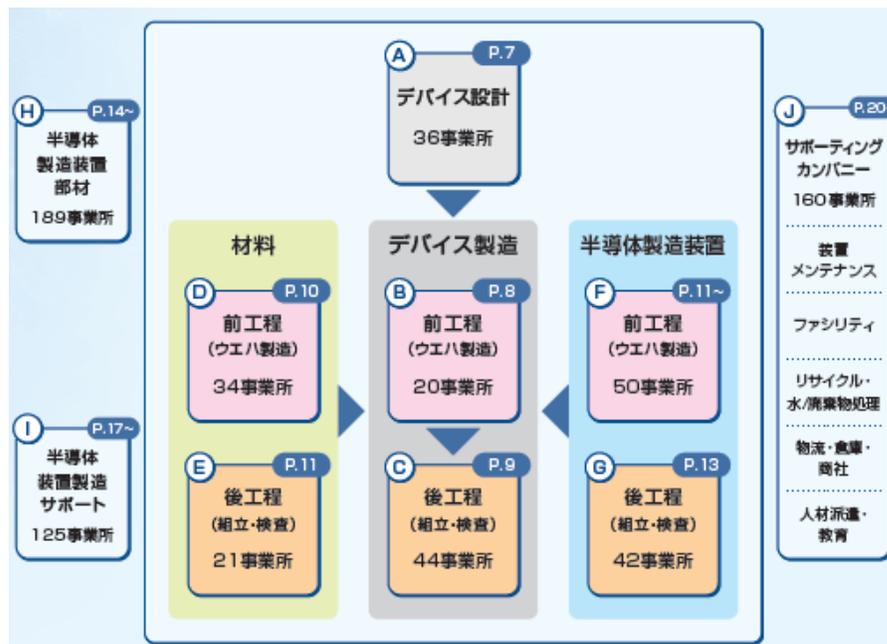
- 半導体人材育成活動を進めるためのコンテンツとして九州に立地する半導体関連企業の情報を集約した『九州半導体関連サプライチェーンマップ』の改訂を実施した。

実施内容

- 九州域内半導体関連企業にアンケートを実施
【期間】2025年8月7日～2026年2月27日
【発送数】917通
【有効回答数】405件（有効回答率：44.2%）
- 半導体周辺産業の企業もマップ掲載の対象とし、現行版（2022年発行）と比較して幅広い分野の情報を掲載
- マップ掲載方法もより分かり易い内容に見直しを実施

活用方法について

- SIIQホームページから電子版のダウンロードが可能（掲載は2026年4月予定）、また印刷版での提供も可能。
- 就職先などの進路相談などにおいても活用をお願いいたします。



1.-② 実態把握・情報収集調査 【構成機関における人材育成・確保の取り組み状況調査】

コンソーシアム活動（人材育成・確保） 中間とりまとめ

※2022年3月～2026年3月（見込み）

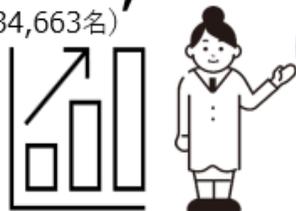
回答機関数：110機関

コンソーシアム設立～2025年度の活動（累計・予定含む）

コンソーシアム設立後 人材育成・確保に取り組んだ機関数・人材数
（括弧は前回調査値）

84機関
（74機関）

363,939名
（134,663名）



小中高生向け

116,556名

高専・大学生向け

90,940名

大学院生向け

29,972名

その他

126,471名

半導体関連
講義新設
学部学科の
新設、定員増

※コンソーシアムでの
把握分を含む

23校

半導体関連講義、人材育成拠点の新設

高校・工業高校

3校

高専・大学・大学院

10校

学部学科の新設、定員増

高校・工業高校

4校・60名

高専・大学・大学院

6校・281名

半導体教育における連携協定
※コンソーシアムでの把握分を含む

20件



- ・九州大学×陽明交通大学（台湾）
- ・有明高専×東京大学大学院
- ・長崎総合科学大学×イサハヤ電子
- ・熊本大学×立命館

等

2025年度の活動（単年・予定含む）

海外人材活躍に向けた魅力発信、研修
実施機関数・参加人数

5機関 **620**
名以上



若年層向けに行う半導体魅力発信のための
ワークショップやイベント、実験キット開発
実施機関数・参加人数

実施機関 **64**機関

参加者 **51,000**
名以上



工場見学実施社数・参加人数

9,700
名以上

・実施企業

16社

・企画した教育機関・行政

6機関



出前授業の実施機関数・参加人数

71機関

26,000
名以上



2.-①半導体産業の魅力発信 【教員向け研修会】

事業の目的

- 半導体関連企業を訪問し、学生の進路選択の一つである半導体産業の現状把握・実際に働く現場の見学を行うことで**教員の皆様に半導体についての理解を深めていただき**、生徒・学生の進路選択時に半導体産業を一つの**選択肢として先生方から提案いただけるよう**、半導体産業の魅力発信を行う。
- 企業（人事担当や参加者所属校の卒業生）との座談会により、**学校での教育と半導体に関する業務の関連性等**について教員の皆様に理解を深めていただく。

実施スケジュールと結果

N O	実施企業	実施場所	主な事業内容	実施日	実施結果
1	三菱電機（株）	パワーデバイス製作所 （福岡市西区今宿東1-1-1）	半導体の設計/開発/製造 （主にパワー半導体）	7月25日	7名参加
2	（株）SUMCO	九州事業所（伊万里・久原） （佐賀県伊万里市山代町久原1-52）	半導体用シリコンウエハの 製造/販売	8月4日	参加者少 のため中止
3	日清紡 マイクロデバイスAT（株）	（佐賀県神埼郡吉野ヶ里町立野950）	電子デバイス（半導体） 製品の製造	8月28日	8名参加
4	ラピスセミコンダクタ（株）	宮崎第二工場 （宮崎県東諸県郡国富町田尻1815）	ウエハ製造 （半導体ウエハファウンドリ）	2026年 1月15日	8名参加
5	フェニテック セミコンダクター（株）	鹿児島工場 （鹿児島県始良郡湧水町北方1770-1）	ウエハ製造 （半導体ウエハファウンドリ）	2026年 1月21日	24名参加



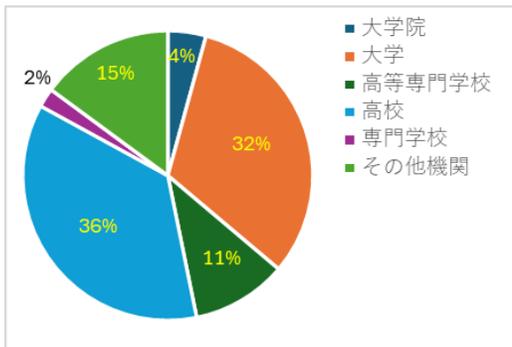
2025年度 参加者合計：47名（内訳 大学：17 高専：5 高校：17 その他教育機関：8） 13

教育機関向け研修会アンケート結果 (1/2)

※4会場 47名分

Q1 所属する機関についてお答え下さい。

大学院	2
大学	15
高等専門学校	5
高校	17
専門学校	1
その他機関	7
合計	47



Q2 専門分野・領域についてお答え下さい。(複数選択可)

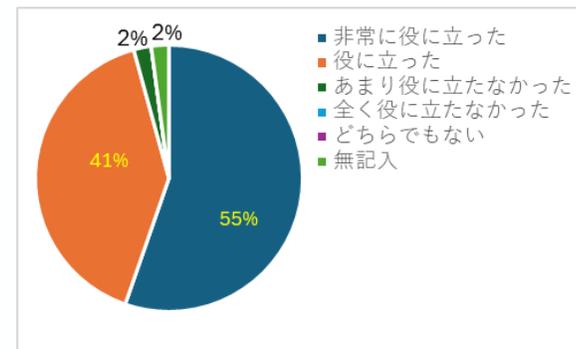
電気電子	15
就職・進路相談	10
人材育成	10
情報・IT	7
機械	6
化学	6
産業支援	6
物理	2
材料	2
数学	0
その他	5
合計	69

Q3 本研修会に参加した理由についてお答え下さい。(複数選択可)

半導体産業について、及びその仕事内容を知りたい	48
就職・進路指導等に活用したい	23
半導体人材の育成に活用したい	21
半導体産業の支援に活用したい	10
半導体企業の人事担当者、卒業生と交流したい	8
その他	2

Q4 本研修会全体の構成についてお答え下さい。

非常に役に立った	26
役に立った	19
あまり役に立たなかった	1
全く役に立たなかった	0
どちらでもない	0
無記入	1
合計	47

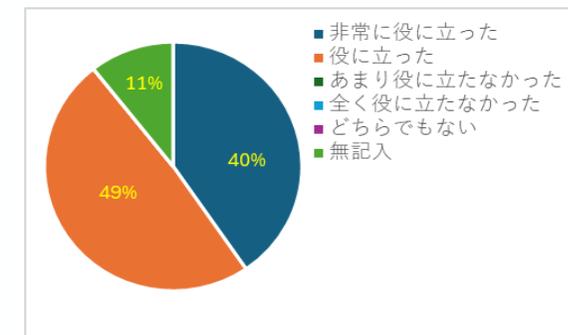


Q5 上記評価に至った理由について具体的にお聞かせ下さい。

企業が期待する人材像を理解することができた
入社後のキャリアプランと現状を知ることができて良かった
半導体企業の訪問・見学は貴重な機会であり、仕事内容を理解することができて良かった
座談会の時間を十分にとっていただき、半導体人材育成に関して理解が深まった
座談会での若手社員の方々との意見交換は学校のカリキュラム設定にとっても参考になった

Q6 本研修会の会社説明についてお答え下さい。

非常に役に立った	19
役に立った	23
あまり役に立たなかった	0
全く役に立たなかった	0
どちらでもない	0
無記入	5
合計	47



Q7 上記評価に至った理由について具体的にお聞かせ下さい。(自由記載)

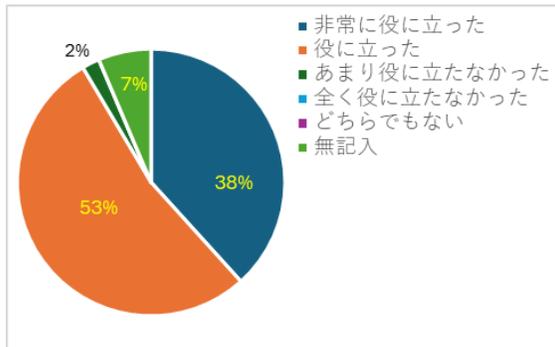
会社について初めて知ったため、今後の進路指導に役立てたい
専門分野を学んでいない学生でも、就職し学んで成長していける環境が整っていることを理解した
各企業の人事担当者と質疑応答が出来て良かった
各企業の特徴が理解出来て、興味深い内容だった

教育機関向け研修会アンケート結果 (2/2)

※4会場 47名分

Q8 本研修会の見学会についてお答え下さい。

非常に役に立った	18
役に立った	25
あまり役に立たなかった	1
全く役に立たなかった	0
どちらでもない	0
無記入	3
合計	47

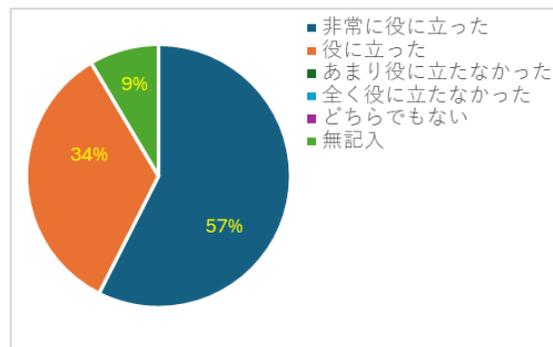


Q9 上記評価に至った理由について具体的にお聞かせ下さい。(自由記載)

工場見学の中で、実際の製造装置を見ることができてよかった
施設を体験することができ、わからないことを直接聞くことができて良い経験となった
クリーンルーム内で働いている従業員の姿を見ることができてよかった
見学の時間を長めに設定してほしかった

Q10 本研修会の座談会についてお答え下さい。

非常に役に立った	27
役に立った	16
あまり役に立たなかった	0
全く役に立たなかった	0
どちらでもない	0
無記入	4
合計	47



Q11 上記評価に至った理由について具体的にお聞かせ下さい。(自由記載)

教育の場において、産業界を知ってもらう機会が必要だと改めて感じられた
現場の生きた意見が聞けて今後の本学の取り組みに対する課題を見つけることができた
社員の方の生の声を聞くことができたことで、具体的に企業・仕事内容のイメージができた
学校における学生の必要な学びについて知ることが出来て良かった
時間配分も問題なく、多くの質問ができてよかった

Q12 今後の研修会開催に当たり適切な開催時期についてご希望をお答え下さい。

(複数選択可)

平日	25
夏季休暇	15
冬季休暇	12
春季休暇	8
就職活動・進路指導時期	3
講義等カリキュラム検討時期	3
土曜日、日曜日、休日等	0
予算検討・策定時期	0

Q13 本研修会に対するご感想、ご要望などあればお聞かせ下さい。

半導体を知るきっかけとして良い取り組みと感じた
当日の企業説明資料がとてもわかりやすく勉強になった
進路選択に役立つ貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました
参加者同士の意見交換の時間も確保して欲しい
今後も九州内の半導体関連企業の見学会をぜひお願いしたい
工場見学の時間がもっと長ければ視覚的にも理解を深められるのではと思った
予め質問したいことをヒアリングしておく、もっと多くの話ができたと感じた

Q14 人材育成WG事務局へのご意見・ご要望などあればお聞かせ下さい。

今後も出前授業などご協力いただきたい
とても良い研修会だった、今後もぜひ定期的実施してほしい
半導体企業の方に出席授業をお願いしたい
ジェネレーションギャップを含め、各社内教育で苦心されている点(大学での教育課題等)について意見交換できる機会を設定いただけるとありがたい

2.-②半導体産業の魅力発信 【産学ミートアップ事業】

事業の目的

- 普段、交流機会の少ない**進路選択前・就職先検討前**の学生・教員、半導体関連企業が一堂に会し、「半導体が切り拓く未来」をテーマに、ワークショップや工場見学等の交流を通じて、以下を目的に開催した。
 - ①教育機関の皆様へ、九州に立地する半導体関連企業を知ってもらうこと、半導体業界で働く魅力を発信すること
 - ②企業の皆様へ、教育機関と繋がるきっかけを作り出すこと、イノベーションの創出に繋げること

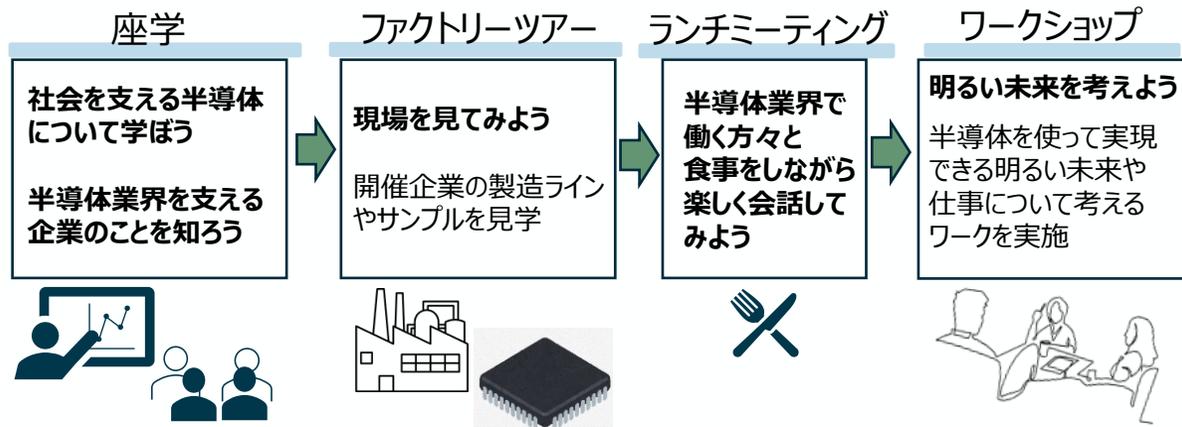
実施結果

【東部九州会場】

- ・開催日時：2025年8月21日（木）
- ・開催場所：株式会社ジャパンセミコンダクター大分事業所（大分市）
- ・参加者：教員・学生28名、企業21名 **合計49名**



プログラム



【西部九州会場】

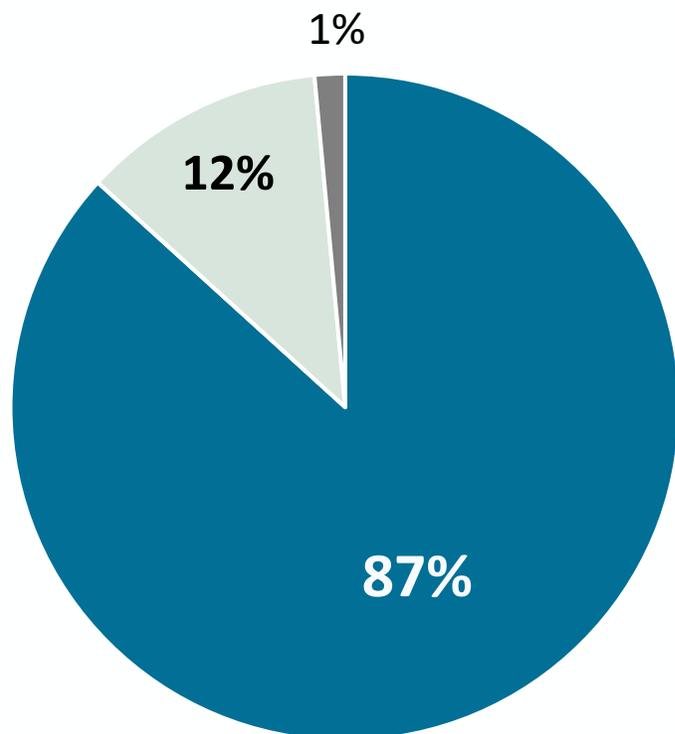
- ・開催日時：2026年2月18日（水）
- ・開催場所：SUMCO TECHXIV株式会社（大村市）
- ・参加者：教員・学生40名、企業24名 **合計64名**



(参考) 産学ミートアップ事業：参加者へのアンケート結果 1 / 2

※東部九州49名+西部九州63名

半導体産業に対する印象の変化 (対象は学生・教員：東部九州28名+西部九州40名=計68名)



- ① 半導体産業への印象が良くなった (n=59)
- ② 半導体産業への印象が悪くなった (n=0)
- ③ 半導体産業への印象は変わらなかった (n=8)
- 無記入 (n=1)

① 半導体産業への印象が良くなった 理由

- 半導体の面白さをより深められたから
- 半導体産業と言っても様々な分野があると分かったから
- 今後の成長に期待できると思ったから
- 九州における半導体産業の活発さを知ることができたから
- 多くの中小企業が半導体に関わっていることがわかったから
- 事業について詳しく知ることができたから
- 世界が求める半導体産業がどのようなものか知ることができたから
- 先が見越せない業界だと思っていたが、将来性があると思えたから
- 半導体は現代の産業、生活には欠かせないものだ分かったから
- 技術や人に対する配慮が業界として素晴らしいことが分かったから
- ワークショップ班の企業の方が親切にいろいろ教えてくれたから

② 半導体産業への印象が悪くなった の回答は無し

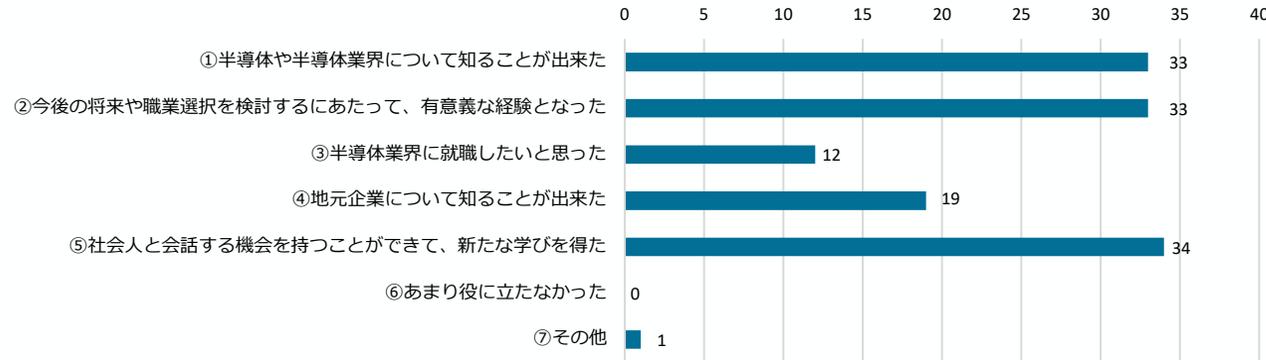
③ 半導体産業への印象は変わらなかった 理由

- 半導体業界に対する印象は元々から良かったから

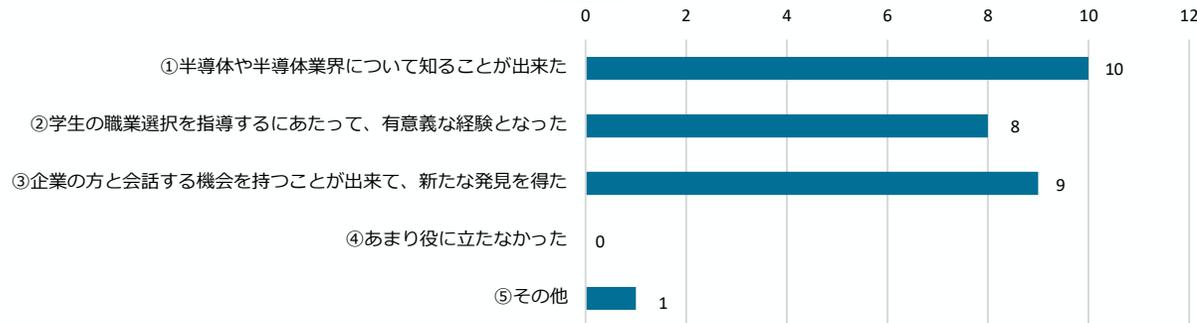
(参考) 産学ミートアップ事業：参加者へのアンケート結果 2 / 2

参加した感想 (複数回答可)

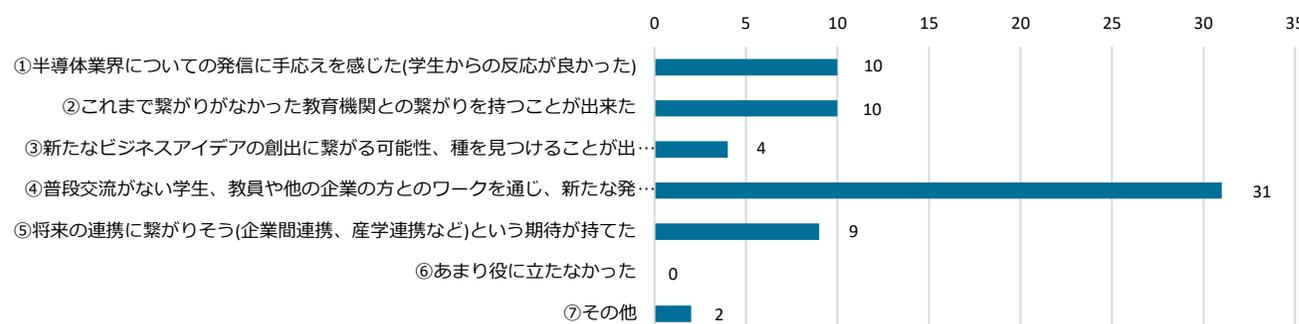
学生



教員



企業



回答の理由

- 社会人の方と話す機会は貴重な体験となった
- 自分が知らない半導体企業も参加していて、業界のことを深く知ることができたから
- 専門的知識がない中でワークショップに参加したが、結果的に自分のレベルが向上した対話ができるから
- クリーンルーム作業以外にも、半導体に関わる仕事は多くあり、選択の幅は広いと感じられたから
- 社会人の方の具体的なアイデアの出し方を学ぶことができたから
- 他の班の方に、企業に関する質問する時間が欲しかった

回答の理由

- 学生さんの柔軟な発想と企業さんの問題解決力に刺激を受けたから
- 工場見学の体験から、授業を行う上で学生に話せる幅が広がったと感じたから
- ワークショップを進める上でどのようなファシリテーションが大切かを考えさせられたから
- 教育機関と企業の交流の場がもっとあればよかったと思った

回答理由

- 参加された他社の採用担当者や、学生と会話する機会が良い経験となったから
- 参加された各社が半導体とは何かを学生に伝えるプレゼンテーションがとても参考になったから
- 学生の考え方などが企業側よりフレッシュで生き生きとしていて良かったから
- 九州をまたいだ企業、教員、学生との繋がりを得られ、大変貴重な体験だったから
- 他企業の方との交流、名刺交換などをする時間をもっと欲しかった

2.-③半導体産業の魅力発信 【半導体産業魅力発信コンテンツのアップデート】

アップデートの背景・方針

- 2024年度に作成した「半導体ロールモデルブック」を2025年度から本格的に活用を進めていく中で、コンソーシアム構成機関から「九州の強みである製造装置や素材の要素をよりアピールしてほしい」、「多様な意見やアイデアを活かしてほしい」というアップデートへの期待が寄せられている。
- そこで、2026年度の本格アップデートを目標に、2025年度下期に、人材育成WG構成機関等から事務局が選定する教育機関及び企業_{※1}を対象に意見照会（意見交換）を実施した。
※1：2024年度「ダイバーシティ推進・ロールモデル発信サブWG」構成メンバーを参考に選定



意見照会の結果概要

▶ 全体共通

- 九州の強みである半導体製造装置や素材等の要素をアピールしてほしい【産業界】
- 想定するターゲットや活用方法が分かりにくい【教育機関】 【産業界】

▶ 第1章（ロールモデルインタビュー）

- 情報量が多く、お堅い印象がある【教育機関】 【産業界】
- イラストベース、全ページ同じ質問項目によってページごとに代わり映えがしない【教育機関】 【産業界】

▶ 第2章（半導体って何だろう？）

- 専門用語や情報量が多く、大学生でも難しい所がある【教育機関】
- 日本の半導体産業の変遷や成長性、業界全体の最新トレンドに関する情報が不足している【産業界】

▶ 第3章（半導体産業に関わる主なお仕事について）

- 業界用語が多く、内容が難しい【教育機関】
- 記載内容と実際の業務内容にギャップがある所があり可能な限り正しく伝えたい【産業界】

3.-①半導体人材の育成・確保 【SIIQ事務局による出前授業】

事業の目的

- 半導体産業における**ボリュームゾーン人材育成を目的**にしたカリキュラムを策定し、**SIIQ事務局による出前授業**を実施。
- 当該カリキュラムをベースに大学、高専、高校における出前授業を展開。デジタル社会における半導体の実用例や、九州半導体産業の集積などを解説し、その**魅力を発信**した。

実施結果

2025年度の実施校

【大学】
佐賀大学、大分大学、福岡大学、九州産業大学
福岡工業大学、立命館アジア太平洋大学

【高専】
佐世保高専、鹿児島高専

【高校】
熊本工業高校、長崎工業高校、大村工業高校
都城工業高校、香椎工業高校

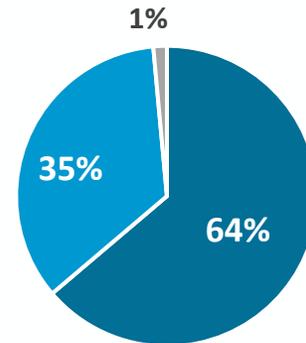
延べ参加者

2023年度
1,856名

2024年度
2,107名

2025年度
2,702名

満足度99%



- 大変満足できた
- ある程度満足できた
- どちらとも言えない



全校生徒、保護者840名参加：過去最多！

参加した生徒・学生からの声

- 半導体を視野に入れてなかったが、九州の半導体企業を知ることによって視野に入れたいと思った。
- 九州の半導体産業がとても盛んで、日本の約50%を担っていることにとても驚いた！
- 日本が世界の中で、半導体に関するとても優れた技術を持っていることを知れた。
- 半導体について学ぶ機会が少ないけど、今回の講義を通して様々なことを知ることができた。
- 半導体がどのような場面で使われているのかを学び、今後の半導体の可能性に関心が高まった。

4.-①横断的・ダイバーシティ推進 【海外人材サブWG】

サブWG設置背景

- 2025年2月にベトナムハノイ市に実行したスタディミッション契機に、ベトナムを中心とした海外との人材交流を念頭に組成。

第1回サブWG会合（2025年9月2日）

- **テーマ**：九州における海外人材活用に向けた取組や課題の共有、今後の論点整理。
- **内容・議論まとめ**：
 - 九州において、海外人材は製造オペレーターを中心に採用・活躍。言語面と定着率の向上が共通課題。
 - 台湾、ベトナム、タイ等のアジア圏を中心に、現地大学等と連携した人材交流・人材育成が行われていることを確認。
 - 同会合において、三菱総研「九州半導体産業におけるベトナム人材確保に向けた調査事業」中間結果を報告。

今後の方向性

- 事務局にて再検討を行い、以下の理由により、**海外人材サブWG（=会議体）は今年度末をもって終了**。
 - 三菱総研調査事業により、九州ーベトナム間の人材交流におけるニーズ・課題を中心とした知見が得られた。
 - ベトナムだけでなく、他国も含めて検討すべきとの意見・期待をいただいた。
- 今後は、**人材育成WG**において、「海外人材の活用・育成」等についてテーマ設定し、議論していく。

4.-②横断的・ダイバーシティ推進 【自治体サブWG】



2025年度の開催・議論概要

開催日	テーマ	内容・議論まとめ
第1回会合 (2025年5月21日)	各自治体の取組紹介と意見交換 (人材育成、サプライチェーン強靱化領域)	<ul style="list-style-type: none">九州半導体コンソ、各自治体の取組紹介を実施。各自治体協議会の取組・運営に係る課題感の共有・意見交換を実施。
人材育成事業に関する 意見交換会 (2025年9月3日)	産学ミートアップ事業・教員向け研修会の 課題や今後の展開方針（2事業の融合及び自治体との 連携開催）の共有	<ul style="list-style-type: none">左記2事業について、各自治体による周知・広報での連携は可能。類似の既存事業がある自治体については、既存事業との棲み分けをした上で、連携可能性を個別に検討していく。
第2回会合 (2026年2月3日)	<ul style="list-style-type: none">九州半導体コンソ取組拡充案 (各自治体との連携)の説明・意見交換 ○産学ミートアップ事業 ○コンソーシアム・ナレッジシェア事業 等九州半導体コンソに希望・期待する 機能や取組に関する意見交換	<ul style="list-style-type: none">各自治体向けに行った「産学ミートアップ事業」「教員向け研修会」の各県開催における課題・要望調査の結果を共有。まずは「産学ミートアップ事業」について、予算面以外において、自治体コンソとの連携（自治体コンソによる主体的な実施）を提案。 →自治体によって、開催条件に一定の制約有り※。受入条件を整理しながら人材育成取組の面的展開を推進。（※県によって、県外企業の受入・県外開催時の県内学生の参加促進が困難等）「人材需給ギャップ調査」をはじめ、人材育成において九州全体における面的調査を今後も九州半導体コンソで取り組んでいく。産学連携での出前授業は、引き続き中核事業として取り組みつつ、各地開催の自走化を支援。

今後の方針

- 九州半導体人材育成等コンソーシアムに参画する自治体（7県、北九州市、福岡市、熊本市）との相互情報共有を円滑に行い、九州における各取組の更なる進展・拡大に繋げることを目的に、人材育成WG及びSC強靱化WG傘下に設置。
- 2025年度は、全3回の会合・意見交換会を開催し、各自治体担当者間のネットワーク構築に寄与。
- 2026年度からは、両WG傘下サブWGとしての会議体運用を見直し、**当コンソーシアム事務局主導でネットワークを維持した上で、各自治体との柔軟な情報共有や連携をこれまでどおり継続していく。**

人材育成WG活動

2026年度 活動計画（案）

人材育成WG 2026年度活動計画（案）

1. 実態把握・情報収集調査

- ① 「半導体人材育成・輩出ポテンシャル調査」による最新の半導体産業への就職状況等の把握 **【継続】**
- ② 「構成機関における取り組み状況調査」による人材育成・確保の取組状況の把握及び対外発信 **【継続】**

2. 半導体産業の魅力発信

- ① 「教員向け研修会」の実施による教員の半導体産業に対する理解度・関心度向上の促進 **【継続】**
- ② 「産学ミートアップ事業」の拡充実施による学生の半導体産業に対する実感値を伴った理解の促進 **【継続】**
- ③ 半導体産業魅力発信コンテンツのアップデートによる活用機会の拡大・興味喚起の促進 **【継続】**
- ④ 小中学生及び保護者向け体験型プログラムの企画・検討 **【新規】**

3. 半導体人材育成・確保

- ① 「出前授業」（横断的教育カリキュラム）の実施による半導体産業を横断的に捉える人材の育成促進 **【継続】**
- ② 「コンソーシアム・ナレッジシェア」の活用による産学連携での教育・研究環境の整備促進 **【新規】**

2026年度活動計画の概要（拡充・新規）

半導体人材育成・輩出ポテンシャル調査の再実施

2023年度調査概要

九州の理工系人材 新卒輩出数
26,530名 / 年



工業高校 高専 大学・大学院

就職

工業高校 732名
高専(本科) 73名
高専(専攻科) 42名
大学 829名
大学院※2 729名

就職者数 **2,405名** / 年
全体の約**4.9%** 九州の半導体企業
1,289名 / 年 (新卒)
九州域外の半導体企業
1,116名 / 年 (新卒)

理工系人材
全体の約**9%**

半導体業界への人材輩出状況をフォローアップ

- 2023年度に実施した半導体人材育成・輩出ポテンシャル調査を再実施する。
- 前回調査後（3年間）における九州の教育機関からの人材輩出状況や人材育成の取り組み状況等を把握するとともに、**学生等の進路選択に大きな影響を与える保護者等の半導体産業に対する意識**を調査し、より有効な人材育成・確保の施策や手法の検討につなげる。

産学ミートアップ事業の拡充実施

これまでの開催概要

- 2024年度：南部九州（ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社鹿児島TEC）
北部九州（福岡大学）
- 2025年度：東部九州（株式会社ジャパンセミコンダクター大分事業所）
西部九州（SUMCO TECHXIV株式会社本社・長崎第一・第二工場）



教育機関・産業界の交流機会づくりを拡充

- 2024年度から実施している産学ミートアップ事業を拡充して継続実施する。
- 2026年度は、「座学と実体験の連動」をベースに、**過去4回開催での参加者の声をフィードバックし、より実りのあるプログラムにアップデートするとともに、**
- 西部九州・南部九州・中部九州の3か所で拡大実施**する。

2026年度活動計画の概要（拡充・新規）

魅力発信コンテンツのアップデート

半導体ロールモデルブック



半導体産業の魅力発信を再加速

- 2024年度に製作・公表した「半導体ロールモデルブック」のアップデートを実施。
- アップデートにあたっては、教育機関及び産業界からの意見を基に、**想定するターゲットや活用方法を明確**にし、読み手の知識レベルや関心トレンド等に合わせた内容・構成・デザインにすることで、より多くの学生等に半導体産業の魅力発信を発信する。

小中学生・保護者向け体験型プログラムの企画

人材育成WGにおけるこれまでの魅力発信の対象

	小中学生	高校生	高専生	大学生	教員	保護者
産学ミートアップ事業						
半導体ロールモデルブック						
出前授業						
教員向け研修会						



“次世代半導体ファン”を増やすプロジェクトを始動

- 半導体産業の魅力発信の対象を拡大し、小中学生・保護者向けの魅力発信プログラムを企画。
- 人材育成WGで取り組む上で、以下に重点を置き企画する。
 - 保護者も一緒に楽しく半導体を知ってもらうこと
 - 企業や教育機関等と一緒に**地域を巻き込んで**取り組むこと
 - 生活者目線**で暮らしと半導体の関係を知ってもらうこと
 - 九州全域でエリアや環境に依存せず**取り組めること